モダンメディア 第6代編集委員エッセイ
～編集委員の思い出～

6代目編集委員を終了するにあたって

国際医療福祉大学大学院 大学院長
矢冨　裕（やとみ　ゆたか）
Yutaka YATOMI

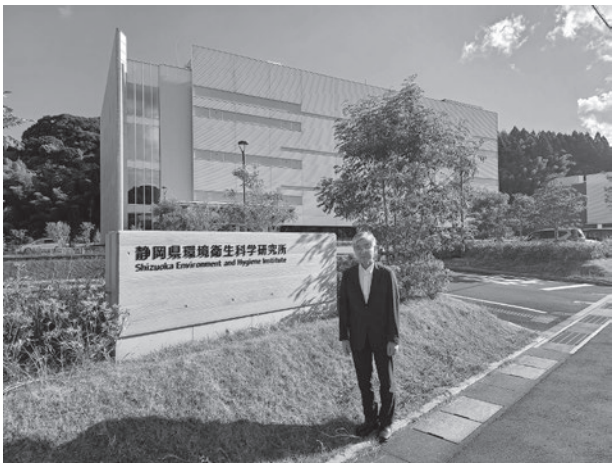
2024年3月をもって、10年間務めさせていただいたモダンメディア誌編集委員の期間が終了になります。ほんとうにアッという間の10年間でした。ご存じの通り、本誌は、微生物学・感染症を中心とした医学・医療、さらには、公衆衛生に関する学術情報の提供を目的としており、長年、多くの読者に愛読されてきました。何と、私が生まれるより前の1955年に発刊されたとのことです。その間、本誌は、歴代の編集委員、そして、栄研化学株式会社事務局の方々のご努力により、一貫して、充実した学術情報を発信し続けてこられ、敬意を表するものです。

私は、10年前に縁があって本誌の編集委員就任の機会をいただきましたが、専門は血液学であり、専門分野からいいますと、ちょっと浮いていたかと思います。編集委員会では、微生物学・感染症の面では、むしろ、私が勉強させていただくことが多かったように思います。一方、臨床検査全般を担当させていただく立場から、何とかお役に立てるよう、心がけておりました。旧来の「新しい検査法」を発展的に改編し、「臨床検査アップデート」シリーズを新たにスタートさせ、新規保険収載検査項目を取り上げつつ、さらに幅広く、臨床検査に関する知識をアップデートいただけるように努めたりいたしました。

編集会議はアットホームな雰囲気で、なごやかなものであり、いつも、楽しく参加させていただきました。コロナ禍においては、残念ながらオンライン会議が主体となりましたが、事務局の方々のきめ細かいご対応で、スムーズに進めていただきました。コロナ明け、暑さ真っ只中の2023年8月に、事務局の方々とともに、静岡県環境衛生科学研究所を訪問させていただいたのも楽しい思い出の1つです（今回、3月号に掲載の全国衛生研究所見聞記　静岡県環境衛生科学研究所之巻で紹介させていただいています）。

本誌発刊当時は、結核を中心に感染症は脅威の中心であり、微生物学・感染症が学問の中でもモダン（近代的）であったと拝察します。その後、わが国の疾病構造も大きく変わり、死因もがん、アテローム血栓症が中心になりましたが、新型コロナ感染症の例を見るまでもなく、今後も、新興感染症、AMR対策など、感染症に関わる確かな情報発信は重要であり続けることは間違いなく、本誌の益々の発展を願っています。

ご一緒に編集作業をさせていただいた歴代編集委員の方々、これまでたいへんお世話になりました事務局の方々、そして、本誌をご支援いただいている読者の方々に心より御礼申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。



全国衛生研究所見聞記で訪問させていただいた
静岡県環境衛生科学研究所の前で（令和5年8月4日）